

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593287

研究課題名(和文) 2型糖尿病患者の主体的な生活を支える連続性を基盤とした看護実践評価指標の開発

研究課題名(英文) Development of the evaluation tool of nursing practice for people with type 2 diabetes focusing on their continuity

研究代表者

河井 伸子 (KAWAI, Nobuko)

神戸市看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：50342233

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、看護師が2型糖尿病とともにある人の主体的な生活の営みを支援する看護実践を発展させていくことを目指す看護実践の評価指標を開発した。開発された看護実践評価指標は、看護師が患者の連続性を把握する、あるいは把握するための情報の不足に気付くことに活用でき、そのことによって患者が主体的に生活と糖尿病の療養行動が縫りあった生活調整を行うことを支援する糸口の発見につながることを示された。また、本評価指標は、看護師個人が一事例の看護実践を振り返り看護を発展させるだけでなく、複数の看護師で評価指標を活用することで、看護師の実践能力向上にも活用できうことが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to develop the evaluation tool of nursing practice focusing continuity to help people with type 2 diabetes to arrange their life autonomously. The developed evaluation tool of nursing practice can help nurses to understand continuity of their patient with diabetes, or to aware lack of information to understand their patient. Through this understanding or awareness, nurse can get a clue to help patients arrange their life integrated life and action for diabetes. In addition, The evaluation tool developed in this study can apply not only for a case study for improving nursing practice for each patient, but also case conference for improving competence of nurses for nursing practice.

研究分野：慢性看護学

キーワード：糖尿病 主体的な生活調整 連続性 看護実践 評価指標

1. 研究開始当初の背景

平成 19 年度「健康日本 21」中間評価報告書¹⁾によると、糖尿病有病者数は 740 万人と増加している。また糖尿病性腎症により新規に透析導入となった患者数は目標値を上まわり 13920 人となり、糖尿病合併症についてはさらなる増加が懸念されている。また平成 19 年度厚生労働白書²⁾においても、生活習慣病に対する医療費が全体の 3 割を超え、糖尿病に係る医療費は 1.9 兆円になるなど、糖尿病患者の QOL の維持および医療費の適正化の面から、糖尿病の一次予防対策のみならず糖尿病患者の合併症進展など重症化抑制の戦略の確立が求められている。

糖尿病看護においても、いかに患者の生活習慣における行動変容を促進し、継続することを支援できるかに多くの力がそそがれてきた。その中で、糖尿病とともに生きる生活はただより良い生活習慣となるよう行動変容するのみならず、どのような自分であり続けたいのか、病気と自分の人生にどう折り合いをつけていくのかといった生きる営みの再考を迫られることなど、糖尿病という病気の持つ慢性性という特徴に注目することの重要性が周知されるようになってきている。

しかしながら、慢性性という特徴を踏まえた包括的な指標が求められているという報告³⁾にもあるように、生活に対する満足感や負担感など生活に対する思いなどの尺度は開発されているものの、折り合いや生きる営みの再考についての包括的な指標は開発されてきておらず、生活の変化や折り合いのつけ方が本当に患者に添う、その人らしい生活になっているのかを悩みつつ判断しながら支援を行っている現状がある。研究者は 2 型糖尿病とともにある人が変化の中でどのようにその人らしい生活を送っているのかをみる視点として Atchley (1999) が提唱した変化の中でのつながりという意味を持つ連続性という概念に着目した。そこで 2 型糖尿病とともにある人の連続性を明らかにする研究に着手し⁴⁾、その研究結果をもとに連続性の概念分析および連続性に着目した看護実践モデルの開発を行った⁵⁾。その一連の研究過程で、2 型糖尿病とともにある人が連続性の感覚を持つことは自己の過去ー現在ー未来が一つの流れとして感覚され、その流れの中で現在の自己を再考し、それを通して主体的な生活調整を行うことにつながることで、またその生活調整は自己の流れに沿っているがゆえに患者にとっては自然体で実行可能なものと感じられることが示された。すなわち、現在の生活が自然なものとしてその人の自己の流れの中に位置づき、過去の経験や将来の展望のもとに自身で生活調整を行うといった主体的な営みとしての生活につながることを示唆された。

またそのような連続性の感覚をもち主体的な生活を営むことを支援する看護実践は従来から行われたような変化に着目し、望ま

しい変化を導く、あるいは変化への適応を促進するという変化に重点をおくのではなく、変化の中で保たれるもの・つながり(連続性)に視点を移し重点を置く必要があることが明らかとなった。さらに連続性に着目した看護実践は、ただ連続性を評価するだけで望ましい調整方法が見出されるわけではなく、患者と共に連続性を見出しつつ、生活調整方法を患者主体で試行錯誤の中から見つけ出し、その生活調整による連続性の変化を見出すという循環する過程が必要であることが示された。これらの結果から、患者の連続性の状態を把握する指標だけでなく、自身の実践のあり方を検討との循環する過程を含めた評価指標を開発することで、看護師が連続性を基盤とした看護実践を発展させていく過程を促進すると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、2 型糖尿病とともにある人の主体的な生活を支える連続性を基盤とした看護実践の評価指標を開発することである。評価指標は Danabedian の提唱する 6) 構造、過程、アウトカム の 3 側面からの医療の質の評価を参考に評価指標を作成する。今回は看護師個人が使用し自らの実践を発展させることを目的としていることから、構造の部分は省き、連続性を基盤とする実践が行っているかの評価(過程)、患者の連続性の感覚の評価(アウトカム)の 2 側面からなる評価指標を作成する。また連続性を基盤とする看護実践が患者の連続性の感覚を評価しながら実践を変化させその結果としての連続性の感覚の変化を評価するという循環した過程であるため、評価指標も 2 側面を循環させながらケアを発展させていくものとする。

3. 研究の方法

評価指標の開発は以下の 2 段階の研究によって行った。

第 1 段階：看護実践評価指標(案)の作成

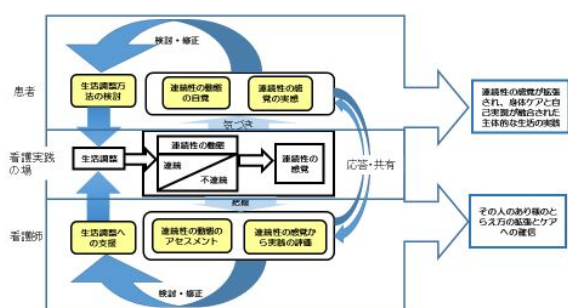
1) 評価指標の要素の抽出

データ収集は、外来通院している 2 型糖尿病患者 3 名に対し月 1 から 2 回の頻度で 10 か月間行った看護実践内容をデータとし、看護師が行った連続性のアセスメント及び評価を抽出し、質的統合法(KJ法)を用いて分析することで、連続性を把握し評価するための構成要素を抽出した。

2) 評価指標(案)の作成

抽出した評価指標の構成要素をもとに、評価指標(案)を作成した。また、先行研究で明らかとなっている連続性に着目した看護実践モデルでは、連続性を把握するだけではなく、それを患者と共有すること、把握した内容を看護実践に反映させていくことが、重要であることが明らかとなっていたため連続性の把握、患者との共有、看護実践への反

映を加味した評価指標(案)とした(図1)。



2型糖尿病患者の主体的な生活を支える連続性に着目した看護実践モデル

図1：2型糖尿病とともにある人の連続性に着目した看護実践モデル

第2段階：専門家会議による看護実践への適用可能性の検討

患者主体の看護実践の能力が高いと思われる認定看護師3名、糖尿病看護の研究者2~3名を1グループとし、2時間半(30分の連続性に着目した看護実践についてのレクチャーを含む)専門家会議を開催した。討議内容は、評価指標でわかりにくいところはどこか、実践でどのように評価指標を活用可能か、どのような患者に活用したいか、活用するうえでの問題点は何か等とした。専門家会議で行われた討議内容を逐語録にし、質的に分析し、実践適用する有用性、実践適用する上での問題点を抽出し、評価指標の修正・洗練を行った。

4. 研究成果

1. 看護実践評価指標(案)の作成

1) 評価指標の構成要素の抽出

2型糖尿病患者の連続性を把握するための評価の構成要素として、【変化度：生活調整の中での変化】【持続性：自己像の維持】【統合：自己と生活調整の相互浸透】【受容度：打開できない者の受け入れ】【掌握度：人生の道のりの見通し】【志向性：生活調整での関心の向き様】【関連性：出来事のつながり合い】の7要素が抽出された。本研究で明らかになった7要素は、連続性に着目した看護実践の評価指標の項目作成の際に活用できると考える。また、本研究で明らかになった7つの構成要素の内容及び関係性から、実践の中で少しずつこの7つの構成要素を紐解くことで、実践の一つ一つの患者との出会いの中で垣間見える患者の様子から、患者の連続性という全体論的なものを把握し評価していくことが出来ることが示された。

2) 看護実践評価指標の構造化

先行研究で明らかにされた連続性に着目した看護実践モデル(図1)から、把握した

連続性から看護実践を発展させ、患者の主体的な生活を支援するには、患者との共有、看護実践への反映が必須であることから、看護実践評価指標の構造を、連続性の把握、患者との共有、看護実践への反映の3段階のプロセス構造とし、各々を行ったかどうかをチェックし評価する構造の評価指標(案)を完成させた。

2. 看護実践評価指標の実践適用可能性

結果より、実践適用に向けて以下の4点が検討課題として提示された。

チェックするのではなく、アセスメント内容や看護実践の変化内容を記入できるものとする必要がある

連続性という概念への理解が難しく、評価項目が何を意味しているかが伝わりにくい

評価の構成要素をいくつ把握できたかではなく、それらを統合することで患者の全体像が分かり、看護実践につながる。

活用方法として、個人が看護実践を振り返るといふより、カンファレンスなどで、複数の看護師が情報を持ち寄り記入していくことで、患者理解が広がり発展する

3. 評価指標の修正および適用方法

上記の結果をもとに、評価指標をチェックシートから、患者把握、患者との共有、看護実践への反映の内容を記入することのできるシートに変更し、やったかやらないかを評価するのではなく、どうしたかに着目できるように修正した。そのことで、看護師の患者把握、看護実践についての内省を促し、患者の全体像を把握し看護実践を発展させることを目的とする評価指標とした。

また、適用方法として、看護師個人が自己の看護を振り返ることに活用し、個々の看護実践を発展させるのみならず、複数の看護師で評価することで患者理解が膨らみより建設的な看護実践につながることを示唆され、今後は評価指標を活用した看護教育プログラムを開発することで、看護師の実践能力向上にも活用できる可能性が示唆された。

引用文献

- 1) 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会、「健康日本21」中間評価報告書、2007、http://www.kenkounippon21.gr.jp/kenkounippon21/ugoki/kaigi/pdf/0704hyouka_tyukan.pdf
- 2) 厚生労働省、平成22年度 厚生労働白書、2011、<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/10/>
- 3) 森川浩子、日本における糖尿病自己管理アウトカム指標の開発、平成15・16年度 科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 2005

- 4) 河井伸子、2型糖尿病とともにある人の連続性(Continuity)、平成16年千葉大学大学院看護学研究科修士論文
5) 河井伸子、2型糖尿病とともにある人の連続性に着目した看護実践モデルの開発、平成21年千葉大学大学院看護学研究科博士論文
6) Avedis Donabedian、東尚弘訳、医療の質の定義と評価方法、NPO 法人健康医療評価研究機構、2007

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 2件)

Nobuko Kawai, Yoshiyuki Takahashi, Yuko Ohara, Yayoi Takahashi, Structural Elements for understanding and evaluation of continuity, 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2013

大原裕子、河井伸子、糖尿病看護領域の研究から明らかとなっている糖尿病患者に関する研究知見の動向 第33回日本看護科学学会学術集会 2013

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河井 伸子 (KAWAI, Nobuko)
神戸市看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：50342233

(2) 研究分担者

正木治恵 (MASAKI, Harue)
千葉大学・看護学研究科・教授
研究者番号：901903539

黒田久美子 (KURODA, Kumiko)
千葉大学・看護学研究科・准教授
研究者番号：20241979

(3) 連携研究者

高橋良幸 (TAKAHASHI, Yoshiyuki)
千葉大学・看護学研究科・助教
研究者番号：30400815